一茶ゆかりの里四季の俳句会（平成二十九年一～三月分）

選者　高山俳壇　松本孝夫先生

特選 天　享保雛遠き目をして人迎へ　　群馬県　竹渕千恵子

一七一六年、今から三百年前の雛、今日までに困難を乗り越えて子女を見詰めて来ている。此れから先もしっかりと見守って欲しい。

特選 地　忽然と山河かき消す猛吹雪　　高山村　佐藤喜代美

鮮明な視野の山河を作者が見ていたら横殴りの猛吹雪がたちまち襲って来た。幔幕を張り巡らされたようになり、恐ろしさを感ずる。

特選 人　濯ぎ物肩いからせて氷りけり　　群馬県　鈴木百合子

濯ぎ物を日当たりの良い所に干したけれども、天気が急変し、せっかくの干物がかちかちに氷り、片すにも物に当たると、ぽきっと折れるので注意せねばならない。

入選　腰かがめ石段下て初参り　　群馬県　土屋はじめ

入選　青き踏む久しき人に逢ふがごと　　愛知県　平野辰美

入選　黒土をぐわつと押し上ぐ霜柱　　群馬県　田村洋子

入選　雨垂れのリズム愛らし雪解け日　　群馬県　斉藤きみ子

入選　板の間の薄目の猫に春日かな　　群馬県　竹渕洋子

入選　ひなの顔横目に急ぐ部活の子　　群馬県　仙田美名代